

Feeling excited

“Dance with Heart”
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.
The Kikunokai Dance Troupe
Representative : Satoshi Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会
〒161-0031
東京都新宿区西落合 2-21-23
03-5983-6001 (代表)

菊の会 京都八瀬研修所
〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町 10
075-712-8701 (代表)

<http://www.kikunokai.co.jp>

Dancing from the heart



撮影：岡本隆史

継承と発展と

舞踊評論家

藤井修治



この七月末に青山のスパイラルホールで「スパイラル芸能の宴二〇一三」が催された。スパイラルホールは従来、欧米の舞台芸術の公演の場として親しまれてきたが、ここの三月から新しいシリーズとしての「花方(はながた)」がスタートし、芸達者で容姿も美しい花形を迎え、その魅力を紹介しようというのである。七月の二回目の公演は七夕にちなんで「星逢いの宴」と題されていた。

舞台中央で未生流笹岡の家元が大がかりな生花を活け、出来上がるとそれを舞台後方に移す。そこで藤舎貴生の第一本の音に合わせて「菊の会」のメンバー七人が独舞と群舞を交錯させた舞踊「星逢い」を披露した。この踊りは畑道代(尾上菊乃里)のルート、尾上流の最高峰尾上墨雪、尾上菊之丞の作になるもので新しい様式美の世界が見えていたのである。

考えてみると四十年以上も前に畑道代が創立した「菊の会」は、常に日本

の舞踊を一般の観客に理解させ楽しんでもらおうという信念に貫かれている。彼女の才能と努力は広くわかりやすいだけでなく時に深遠な世界に突入もしていた。演目も古典の代表作をはじめ、畑道代主演のミュージカルのような長大な舞踊劇もあったし、反対に四季の風物風景や日常の情景などの断片をまとめ、それらを緩急強弱の起伏をつけて構成した楽しい舞台等々、多彩なものがあつた。それらすべてが畑道代の人生観から紡ぎ出されており、「菊の会」の創立当初から今日まで見事に継承されてきたのである。

今回は劇場側の意向もあつてか、畑道代の出身した尾上流の新作「星逢い」が上演され、これはかなりの高みに達していた。そしてこの会の終わりににはトーク部分が置かれていた。スパイラルホール側から青山亭主人として作家の岩下尚史が舞台のしも手に、かみ手には俳優の八嶋智人が司会をつとめ、正面には今回の出演者全員と、完璧に対称的に並びながら、日本文化は対称的でなく非対称の場合が多いなどという話も出ていた。舞台芸術の公演では解説的なスピーチがあることは珍しくないが、この会ではトークをあえて最後に置くことによつて、この重要性を示唆したとも思えるが、これもホルの哲学ともいえるよう。

さて新生面を拓いた「菊の会」は、八月末、尾上流の会に十人が登場して「松の翁」を踊った。

こんなことも「菊の会」の強い意志、実力の向上と明るい未来を感じさせる。



千葉公演 「初夏に舞う」 を鑑賞して

チェリスト
伊藤耕司

菊の会創立41周年を迎えられ、新たなご出発をお祝い申し上げます。
このたび私は、菊の会の公演

を初めて鑑賞させていただきましたが、その見事さに感動いたしました。

舞踊は、言葉を使わずにお客様に感動を与える、という面では私共の器楽演奏と共通するものがあり、大変興味深く拝見いたしました。最初は、畑聡さんと安江小百合さん、青木有子さんの



沖縄舞踊「鳩間節」より



常磐津「釣女」より

舞われる、長唄「都風流」で格調高く、しつとりと菊の会の真髓の舞を見せたいだき、次には、狂言舞踊常磐津「釣女」で、昨今を問わず素直に楽しめるストーリーを演技力たっぷりのお三方と美しいお嫁様にすっかり魅了されて、おなかを抱えて笑わせていただきました。

休憩後は獅子舞が会場から登場し、場内の客席を回り、特に小学生たちは声を上げて大喜びをしております。それに続いて民謡風土記「とうざいなんぼく」、東京、沖縄、広島、青森他、各地の民謡に振りや演

出を凝らして魅せていただきました。「菊花太鼓」は特に見事でした。(私が音楽業だからかもしれませんが) リズムや動線の美しさに目を耳を見張りました。またそれぞれの民謡が、しつかりその風土の伝統的な色を醸し出しており、変化に富んでいて流れもよく、10曲の民謡の最後は宮城県の「どや節」で大漁旗を揚げて総出演で大いに盛り上がり、幕を閉じました。

2時間あまりの公演があつという間に終わり、その舞台にかける菊の会の皆様の熱意と気迫に圧倒され、自然に涙が出て止まりませんでした。舞台袖での早替わりも、お忙しいことでしょう。どれだけの精進を重ねて今日に至られているのかを想いました。梅雨空の雨がしとしとと降るうつつとうしい一日が、心爽やかな日となりました。菊の会の今後の発展を心よりお祈り申し上げます。感謝に代えて。



上、沖縄舞踊「四つ竹」
下、宮城県「どや節」

■プロフィール
東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。これまで文化放送音楽賞を受賞されNHK FM 土曜リサイタルを初め各方面でご活躍されております。奥様はフルート奏者の黒田有子氏。

た若者達の舞踊会 のメンバーが出演

本列島」、そして第3部は舞踊劇「おてもの嫁入り」を上演。畑道代先生が生前最も大切にしていたことが、日本文化を継承する若手の人材育成でした。第1回目に当時3歳で出演したメンバーも高校生となりました。

これからもこの「さつき会」を日本文化を担う若者の学びの場として続けて行きたいと思ひます。



畑道代先生との思い出



文学座 俳優
大場泰正

「あなたたちですよ。」
以来、機会あるごとに、電話やお手紙でご指導いただきました。僕自身の人生のことから、これからの日本の世界の文化芸術についてまで。

「これまでの新劇は、うったえすぎてきたように思います。人は天性の感受性をもっています。美、心の通った、『言わずもがな』の共感こそを目指すべきではないでしょうか。」今でも田中重子さんが手紙で、

1997年(平成9年)4月
4日、京都こゝろした畑道代先生

本年15回目を迎 「さつき会」に37名

次代を担う若者達の舞踊会と題して毎年5月に開催される「さつき会」が5月25日26日、菊の会スタジオで開催されました。

15回目となりました本年は総勢37名が出演し、第1部では長唄「寿菊三番叟」、大和楽「舞妓」、長唄「鶴亀」、第2部では全国各地の民謡をちりばめた三隅治雄作民族舞踊詩「燃えよ日



生を訪ねました。それにしても・・・なんというめぐり合わせでしょう、その日の未明、劇団の師、杉村春子が亡くなったのです。僕は文学座の旅公演で奈良にて、朝、京都に向かいましたが、予期せぬ訃報を携えての訪問となりました。

鴨川沿いのお部屋で朝食をいただきながら、畑先生はおっしゃいました。「本当に偉い方でした。私も女性の代表としてやってきたからよくわかります。でも大切なのは後継者です。」

「劇」というものの本質、「本流」「一流」というものを、僕に最初に教えてくださった人、それが畑道代先生でした。

■プロフィール
大場 泰正
早稲田大学第一文学部フランス文学科中退。
1993年(平成5年) 劇団文学座付属演劇研究所入所。
1998年(平成10年) 劇団文学座座員となり現在に至る。

菊の会公演 「初夏に舞う」に寄せて



千葉市教育長
志村 修

千葉の街に夏が訪れ、睡蓮や紫陽花が咲き誇る中、いよいよ楽しみにしていた菊の会の千葉公演の季節になりました。

学習指導要領の改訂により、児童・生徒への我が国の文化・伝統の伝承が重要視されてきた中、いち早く文化庁「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」学校巡回公演に取り込まれた「菊の会」の活動をご紹介でき、それを縁にご案内戴いた公演でしたが、子どものことを忘れて、すっかりその魅力に嵌ってしまった私でした。

美・迫力・涙・笑・・・そして、心、それら人としての本来の感性が凝縮された舞踊集団「菊の会」の舞いには心底打ちのめされました。しかしながら、例年、他の行事



公演終了後、ロビーにて公演メンバーと記念撮影(朝鮮小学校の皆様)

と重なってしまい、第二部は中座することが多く、残念で悔しい思いをした記憶がありました。

そのような折、畑代表をはじめ関係各位にわざわざお越し戴き、今年の公演のお話を伺う機会を得ました。特に印象に残ったのは、代表自らが熱く語られた「どや節」(宮城県民謡)でした。松島辺りの港から出漁する漁船の大漁祈念の唄ですが、千葉県では同様な風習として銚子から九十九里にかけて「万祝」があり、昇り旗や絆纏に共通のものがあるよう話が弾みました。公演ではプログラム最後の総出演での迫力ある舞いをご披露戴き感動致しました。勿論、長唄や狂言舞踊、日本各地の民謡、沖縄楽器四つ竹や和

太鼓の演奏など多種多様な技に酔いしれた一時でした。

感激のあまり、隣の大先輩にお礼を言うと、彼は「菊の会は、これまで古い体質の舞踊の会ではなく舞踊集団としての活動だから、古い柵(しがらみ)に縛られることなく、自由にテーマを選択し、切磋琢磨しながら成長していくのでしよう。」と教えてくれました。

日本の伝統・文化を大切にしながら、常に新しいものにチャレンジする舞踊集団「菊の会」の確かな未来と、教え子たちの明るい未来とが重なり合っって見えた公演でした。

菊の会所沢公演「初めて観た日本のおどり」

毎年恒例の菊の会所沢公演が本年も5月10日盛大に開催されました。菊の会の公演は、小学生からご年配方まで幅広いお客様に好評で、毎年の公演を心待ちにしているリピーターの方から、「今年の舞台は、昨年よりも素晴らしい!!」「今、日本に忘れさられているものがここにある」と感動の声が多く

寄せられております。その中で今回東京都小平市にあります朝鮮大学より舞踊関係の3名の教師と13名の生徒の皆さんが菊の会公演にお越し下さいました。公演終了後、沢山のご感想を頂きました。その中から代表しまして林優花さんの感想を掲載させて頂きます。



朝鮮大学教育学部3年
林 優花さん
リン ウ ファ



込み、他の民族の舞踊には目を向けようとしなかったのです。いや、朝鮮舞踊が一番優れているという自説を固執して、他民族の舞踊の優越な所を認められなかつたのかもしれない。今回の公演を通し、この私の頑固な考えが覆されました。私自身が日本舞踊にこんなにも釘づけになるとは思いませんでした。公演は一言ですごく楽しかったです。飽きる事がありません。



「さなぶり春駒」一昔前の日本の情景が漂う、動物達の返しの物語

今回、授業の一環で菊の会公演を観覧致しました。正直初めは公演の観覧に乗り気ではありませんでした。朝鮮舞踊の授業の一環で、なぜ日本舞踊を観なくちゃいけないのか。起承転結が明確で衣装も派手な朝鮮舞踊に比べて上品で、おとなしい印象の日本舞踊を観て一体何が楽しいのか。未熟ながらも長年にわたって朝鮮舞踊をやってきた自身にとって舞踊という定義が朝鮮舞踊でしかなかったのみならず、朝鮮舞踊が世界で一番優れた舞踊だと思



た。この作品には、今日の日本社会とは相当異なる光景が広がっていました。自殺や犯罪、許されざる様な社会現象が起こる中で今私たちは生きています。こんな中、変容した日本の文化が今日の公演に現れていた姿のように、本来の姿を取り戻せばどんなに良いことでしょうか。日本舞踊は日本の方々から希望を与える力を持つていると思います。そんな日本舞踊を守り普及活動を行われて



した。特に「俺ら東京さ行くだ」は他の作品とは雰囲気少し違って楽しかったし、地方から出て来た自身にとって共感できた作品でもあります。「さなぶり春駒」では、昔の日本人の平凡な、平和な暮らしを垣間みる事ができました。そして、一昔前まではこんな優雅な暮らしが広がっていたのだなと思うようになったか複雑な気持ちになりました。

INFORMATION

菊の会公演予定 (10月~11月)

【四季に舞う】菊の会公演
10月19日(土) 14時30分開演
鹿嶋勤労文化会館(茨城県鹿嶋市)
指定席6,000円/自由席一般5,000円/学生2,000円

【海はるか日本を躍る】京都アトリエ公演
菊の会八瀬研修所(京都市左京区)
10月26日(土)11時/15時開演
27日(日)11時/15時開演
料金/4,500円(全席自由)

【海はるか日本を躍る】菊の会アトリエ公演
11月3日(日)・10日(日)各日12時・16時
菊の会スタジオ(新宿区西落合)
料金/4,200円(全席自由)

【錦秋に舞う】菊の会秋の自主公演
11月19日(火) 14時30分/18時30分開演
タワーホール船堀小ホール(江戸川区)
指定席5,500円/自由席一般4,500円/学生2,000円

11月22日(金) 14時30分/18時30分開演
和光大学ポプリホール鶴川(町田市)
指定席6,000円/自由席一般5,000円/学生2,000円

11月24日(日) 14時30分
南流山センター(千葉県流山市)
自由席一般4,200円/学生2,000円

11月26日(火) 14時30分/18時30分開演
東村山市立中央公民館(東村山市)
指定席6,000円/自由席一般5,000円/学生2,000円

【四季に舞う】菊の会公演
11月30日(土) 14時30分/18時30分開演
キラリ☆ふじみ(埼玉県富士見市)
指定席6,000円/自由席一般5,000円/学生2,000円

※上記の日程は予定ですのでご確認の上御来場下さい。

【チケット申し込み・お問い合わせ】

菊の会事務局 Tel 03-5983-6001 Fax 03-5983-6002

いる菊の会の皆様、どれほど素晴らしいのかを思い知らされました。そして、各民族を象徴する舞踊が人々に大きな影響を与えるという事を思い知らされました。上述した通り、私は朝鮮舞踊が世界で一番優れた舞踊だと思込んでいました。しかし、人々の心を掴み感動を与えるのは朝鮮舞踊だけではないのだと、どの民族の舞踊も朝鮮舞踊と同じ力を持っているのだという事を思い知らされました。本当に舞踊は素晴らしいと思います。私は近い将来、民族教育の場



京都八瀬研修所
2013年8月5日

知道代先生と親交のあった大野俊三さん(ジャズトランペッター・左から2番目)のご案内で遼寧師範大学の崔学森先生(池田大作和平文化研究所 副所長・中央)と朱建平先生(北方工业大学・左端)が京都八瀬研修所にご来訪。平和と文化をテーマに話し

世界的なジャズトランペッター 大野俊三氏ご一行が 八瀬研修所に来訪!

朝鮮舞踊を教え守ろうとしていける今の志を大切に、菊の会の皆様のように、朝鮮舞踊を通していつまでも自身の民族、文化を誇り、異国の地で朝鮮舞踊を守っていきたいと思います。

大切な事に気付かせてくれた菊の会の皆様に本当に感謝しています。今日は本当にありがとうございました。